



MOYAI ANNUAL REPORT 2024



認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい
2024年度 | 年次報告書



MOYAI ANNUAL REPORT 2024

拡がる生活の苦しさ 物価高やコメの価格上昇を受けて

大西 連

認定NPO法人 自立生活サポートセンター・もやい 理事長

2024 年度の 1 年間を振り返ると、やはり、物価高ということに尽きると思います。

コロナ禍以降、また、ウクライナ戦争など国際的な情勢の不安定化など、さまざまな要因があると思いますが、みなさんもご存知の通り、ここ数年は継続的に急速な物価上昇が続いている。同じ値段でも商品の量が少なくなるなどのステルス値上げも含め、生活コストの上昇は待ったなしです。

この物価上昇は、中間層をはじめ、すべての人々に降りかかるものもありますが、特に低所得者にとっては生活を破壊するほどのインパクトを持つものもあります。

株価の上昇をはじめ、景気の回復もうたわれ、賃金も上昇していますが、非正規で働く人やフリーランスの人など、不安定な雇用環境の人の賃金水準が劇的に回復しているわけではありません。

また、年金や生活保護の支給水準があがっているわけではありませんので（多少の加算等がある場合もありますが）、暮らしは厳しくなる一方です。

そこにさらにコメの価格上昇が襲来しました。収入は増えないが支出が増えていく。生活不安の高まりはより顕著になっていると言えます。

■都庁下に 828 人が並ぶ

物価高の影響は私たち〈もやい〉の活動にも大きな影響を与えています。

2020 年 4 月から毎週に拡大して実施している新宿都庁下での食料品配布と相談会の活動には、

2025 年 1 月末には 828 人が来られました。ここ 2 ~ 3 年、来られる方の人数は増加傾向にありました。800 人の大台に乗ったのは初めてです。生活が苦しい人の生活をどう支えていくか、社会がどう守っていくかは大きな宿題であると言えるでしょう。

■孤独・孤立 つながりの貧困に対して

また、2024 年度は「葬送」についてのクラウドファンディングを実施したり、子育て世帯向けのパンツリー活動を本格化させたりと、居場所づくりや社会参加の機会創出などの取り組みについても積極的におこなってきました。

支援する、される、という関係をこえて市民同士が相互に支え合えるような、また排除や対立ではない社会システムのあり方を目指して、私たち〈もやい〉は引き続き活動をおこなっていきたいと思います。

■引き続きのご支援をよろしくお願ひします

支援活動の拡大にともない、支援物資等の不足に悩まされています。都庁下での活動では約 800 人分の食料品セットを用意する必要があり、大規模なロットでの物資の寄附が集まらない状況になってしまふと、活動の持続性にリスクを抱えてしまいます。

すでにたくさんの方にご支援をいただいている立場で大変恐縮ですが、ご寄附や支援物資のサポートをいただけますと幸いです。

理事長 大西連

01 都庁下の活動



2024年度の都庁下での食料配布と相談会の年間実施回数は50回、配食総数は36,723人となり、昨年度に比べ約2,000人多くなりました。最多は2025年1月25日の828人でした。物価高や住まいの不安を背景に列に並ぶ人は増え続け、相談内容も一層多様化しています。支援物資の確保が難しくなっており、安定的な調達が今後の課題です。

02 もやいカフェ



〈もやい〉では、広報活動の一環として、貧困問題を多くの方に知っていただくための研修やイベントを実施しています。新たな試みとして「もやいカフェ～貧困問題をみんなで考える～」を4回開催し、地域との新たなつながりや、ボランティア参加のきっかけとなりました。今後も、多くの方に貧困問題を知っていただき、ひとりひとりに何ができるのか、考えるきっかけとなる場づくりを続けていきます。

03 住まい結び事業の再開



休業していた住まい結び事業(不動産仲介事業)を再開しました。再開にあたっては宅地建物取引業者免許を再取得し、体制の整備を行いました。

休業前と同様に限られた人員で行っているため、直接対応できる件数にはどうしても限りがありますが、〈もやい〉の他事業と連携しながら、住まい探しの現場からの情報発信し、生活の基盤である「住まい」をめぐる問題に引き続き取り組んでいきます。



MOYAI FUNERAL PROJECT
〈もやい〉の葬送プロジェクト



現地視察で大阪の納骨堂を訪れた時の様子（2025年4月）

身寄りのない方の「お見送り」を考える
〈もやい〉の「葬送」プロジェクトは、2024年10月7日（月）～11月30日（土）の期間でクラウドファンディングを行い、349名の方より3,264,560円のご寄附をいただき、活動をスタートしました。

今後、単身高齢者が増加するなかで、身寄りがない方の「葬送」は大きな社会課題になってきます。誰もが本人の望む「葬送」が行われるように、ホームレス支援団体等への調査（アンケート、現地調査）をおこなって報告書にまとめ、必要な支援の在り方を検討し、関係省庁に政策提言していきます。

各事業の報告

生活相談・支援事業

事務所および都庁下にて生活相談・支援事業を継続して実施しました。

記録的な物価高の影響もあり、女性や子育て世帯からの相談が増加しています。一人ひとりの困難に丁寧に向き合い、必要な支援につなげる活動を続けています。



生活保護申請の同行件数

約120件

約3,800件

都庁下での配食延べ数

36,000 食以上

相談者に占める30代以下の割合:約3割
相談者に占める女性の割合:約3割

入居支援事業

連帶保証人

緊急連絡先

305 1,302
世帯 世帯

(うち新規1世帯)

(うち新規156世帯)

新規利用

シェルター稼働率

8名

60.5%



毎週金曜に連帯保証人・緊急連絡先の新規／更新契約手続きを行っています。また必要に応じて、住まいに関する相談対応や、転居・死亡・施設入所された方の部屋の引き払いなどを行いました。2024年度は宅建免許の再取得手続きをすすめ、不動産仲介事業を再開しました。シェルターは4部屋を運営中です。写真は、顧問弁護士の林治先生とのミーティングの様子です。入居支援事業における相談対応や法的な対応が必要な時にサポートいただいている。

交流事業

サロンは月2回の定期開催となりました。コーヒー焙煎事業はイベントへの参加も増えています。子育て世帯や単身女性に向けた交流型パントリー事業は6回行いました。農作業は稻城のめぐみの里山や、もやい畑で定期的に開催しました。また〈もやい〉の葬送プロジェクトについて、クラウドファンディングを実施し、Instagramでの発信も始めました。



広報・啓発事業

取材対応

50 件以上

〈もやい〉セミナー参加者

250 名以上

政策提言実績

2024年9月

厚生労働省に要望書を提出



前年度に引き続き、中学生・高校生・大学生などの若い世代からの関心が高く、活動見学やメディアからの取材依頼を多くいただきました。「もやいカフェ～貧困問題を考える」といった学びの場の開催や、クラウドファンディング「もやいの葬送プロジェクト」などの新たな取り組みを実施しました。

居場所づくり

サロン

実施回数 23回／参加者 408名
(延べ)

はたらく場づくり

コーヒー焙煎

実施回数 50回／参加者 378名
(延べ)

農作業

実施回数 51回／参加者 356名
(延べ)

交流型フードパントリー

実施回数 6回／59世帯

サロン・もやい結びの会実施イベント

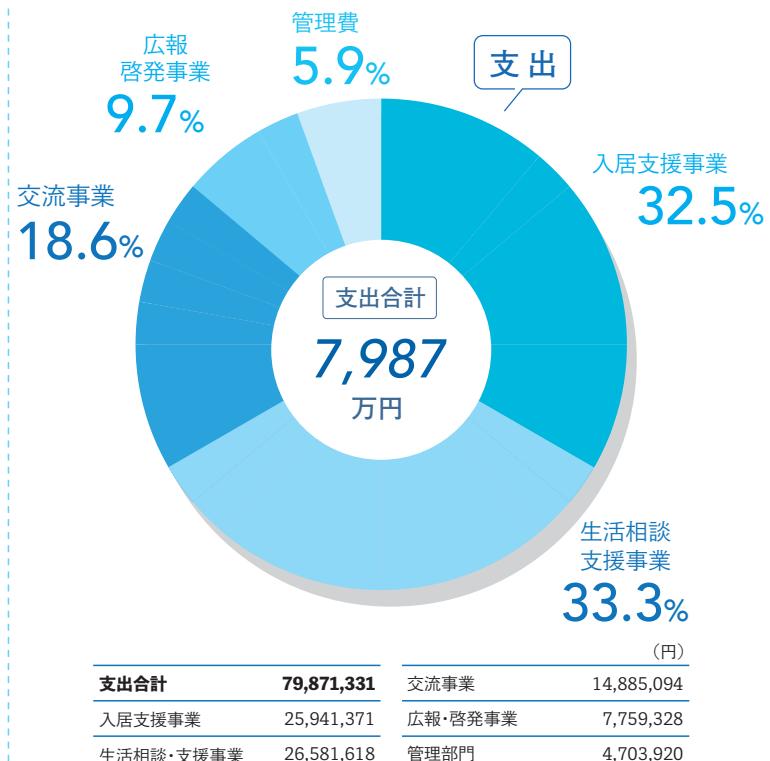
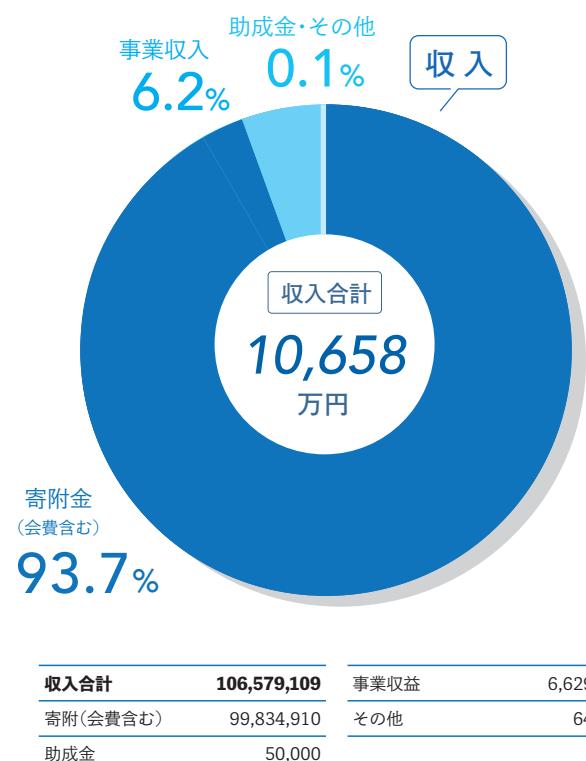
春のお墓参り、棚経、敬老会

2024年度 会計報告

2024年度も多くの方にご支援をいただきました。2023年度と比べると金額は減っているものの、物価高騰などの社会状況にもかかわらずこの寄附額を維持できているということは、引き続き〈もやい〉の活動が必要とされていることの証かと思います。

一方、支出は入居支援事業などを中心に微増となっています。

支援の規模拡大にともなう支出増をカバーするには、それに見合う収入の確保が必須です。しかしながら、本来〈もやい〉が目指しているのは規模の拡大ではなく、〈もやい〉がいらないくなる社会です。すべての人に健康で文化的な生活が保障される社会を目指して、これからも活動を続けていきます。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



※按分経費の端数処理の関係で、内訳の計と支出合計は一致しません

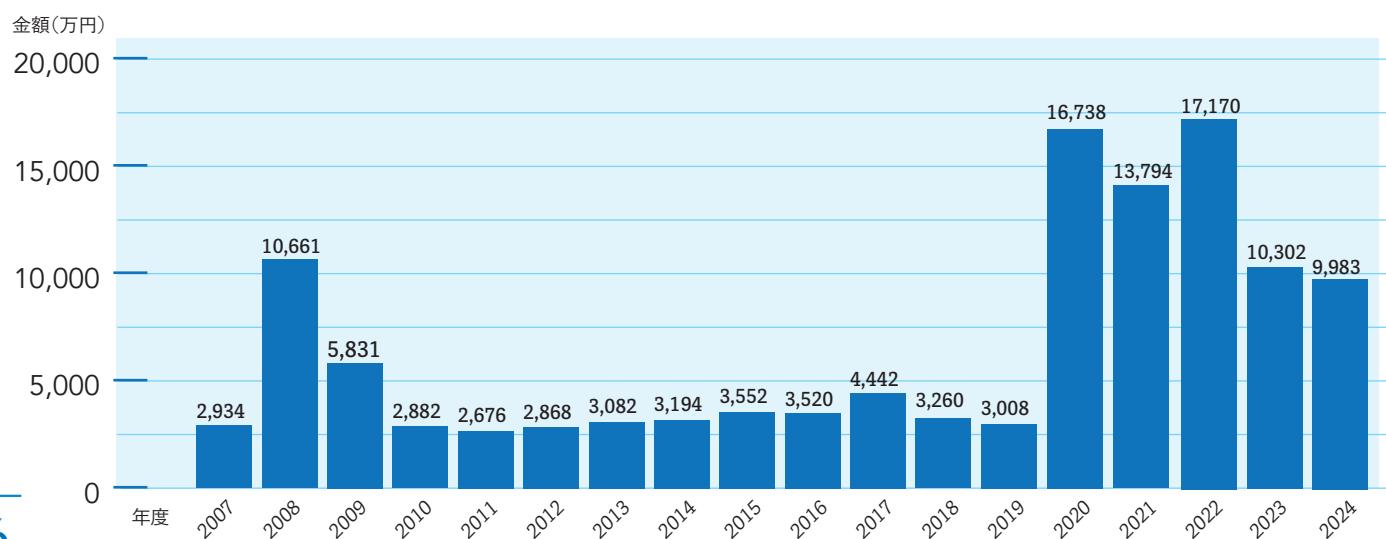
助成金取得実績

SOMPOホールディングス「SOMPOちきゅう俱楽部社会貢献ファンド」

物資支援等

カタログハウス／フードバンクむさしの／公益社団法人日本非常食推進機構／パルシステム東京／パルシステム連合会／フードバンクいたばし／フードバンクTAMA 他多数

寄附金額の年次推移 (2007年度以降)



メディア掲載実績

新聞

- ▶コロナ禍と物価高で加速する生活危機 安全網の「穴」ふさぐには／朝日新聞
- ▶毎朝「80歳」と心でつぶやきます…都庁前の食品配布会に並ぶ女性の人生／東京新聞
- ▶「疲れました」コロナ禍で店をたたんだ料理人がつぶやいた 都庁前「無料食品配布会」／東京新聞
- ▶特集ワイド：輝く都庁の下、食求め700人 困窮者増える一方、華やかイベントに違和感／毎日新聞
- ▶NPO法人の食料配布に700人超が列 通年で最多、物価高影響で生活苦が深刻化／産経新聞
- ▶都知事選 格差象徴の現場で 映像華やか、足元には貧困／静岡新聞
- ▶食品ロス削減へ官民連携／河北新報

雑誌

- ▶都庁前に生活困窮者770人以上 小池都知事は食料配布現場に一度も現れず／週刊金曜日

テレビ・ラジオ

- ▶「荻上チキ・Session」出演／TBSラジオ
- ▶NHKニュースなどの報道番組

WEBメディア

- ▶生活困窮者に相談の選択肢を 3つの“オンライン”支援サービス／LIFULL HOME'S PRESS
- ▶遠藤卓也(未来の住職塾・理事)×対談レポート／READYFOR
- ▶年末年始の「炊き出し」にも“物価高騰”的影響…／弁護士JPニュース

ほか、掲載・出演多数

もやいの活動をご支援ください

〈もやい〉の活動は、多くのみなさまからのご寄附で支えられています。日々〈もやい〉に届くSOSに応えていくためには、安定した財政基盤が欠かせません。この社会から貧困問題がなくなる日まで、私たちの取り組みにぜひみなさまの力を貸しください！
※〈もやい〉への寄附金(相続財産・遺贈寄附含む)は税額控除の対象になります。

寄附の方法

【単発の寄附】

▶クレジットカード決済

▶口座へのお振込み

郵便振替口座

銀行口座(三菱UFJ銀行)

ゆうちょ銀行口座

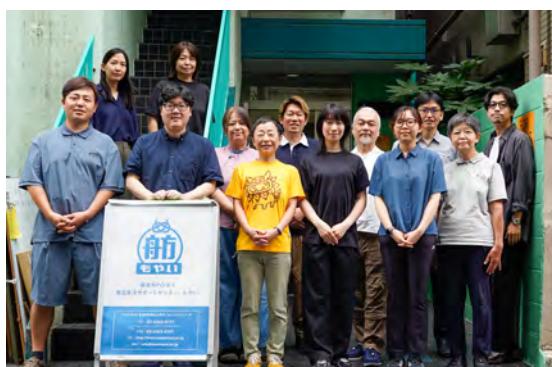
【継続的な寄附】

▶クレジットカード決済

▶銀行口座から引き落とし



寄附に関するお問い合わせ：TEL 03-6265-0363(火・水・金 11~17時、祝日休み) <https://www.npomoyai.or.jp/kifu/>



もやいスタッフメンバー

後列左から：東あさか(入居支援)／小泉幸子(事務・経理)／松下千夏(交流)／多田学(生活相談)／河村毅之(コーヒー)／桑原康平(事務・経理)／田中悠輝(交流・広報)
前列左から：神部紅(生活相談)／大西連(理事長)／加藤歩(事務局長)／田村千佳(入居支援・広報)／黒木菜月(生活相談・広報)／澤田洋子(入居支援)／川岸夕子(入居支援)、長谷川ようこ(交流・事務・経理)



認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい
のミッション

新たな暮らしの基盤と、新たな人間関係を。
ひとりひとりの再出発を応援するために、
4つの「つながり」事業を展開しています。



01

入居支援事業

新生活の基盤づくりに「つながり」を。

アパート入居にむけた支援 不動産仲介事業

02

生活相談・支援事業

生活の困り事を相談できる「つながり」を。

もやいほっとライン 面接相談 制度利用のサポート

03

交流事業

おたがいに信頼し合える「つながり」を。

イベント開催 居場所づくり

04

広報・啓発事業

社会と貧困問題に「つながり」を。

公的機関への提言 情報発信 講演

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい

〒162-0801 東京都新宿区山吹町362 みどりビル 2F

TEL 03-6265-0137(火曜日12時～18時・金曜日11時～17時・祝日はお休み)

FAX 03-6265-0307 info@npomoyai.or.jp <https://www.npomoyai.or.jp/>